

会 議 録

1 会議名

令和5年度第10回新道区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

- ・4年間の活動の振り返りについて
- ・次期委員への引継事項について

(2) 報告事項（公開）

- ・地域独自の予算の事業一覧について

(3) その他

3 開催日時

令和6年3月5日（火）午後4時30分から午後5時10分まで

4 開催場所

新道地区公民館 多目的ホール

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：秋山 茂、飯塚幸太郎（副会長）、井澤 愛、金井 正、佐藤三男、杉田栄作、千町健実、高野ゆかり、塚田仁子（副会長）、船崎 聡（会長）、本城敏男、三浦正郎、横山明夫（欠席1名）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長、山崎主事

8 発言の内容

【渡邊係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

【船崎会長】

・会議録の確認：本城委員に依頼

次第 2 議題「(1) 協議事項」の「4 年間の活動の振り返りについて」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

4 年間を振り返り、全委員から感想をいただきたい。

【秋山委員】

委員として本当に満足した 4 年間とは言えず、もっとできることは無かったかと自問自答している。例えば、小学校高学年から高校までの学生や町内会との交流会、出張協議会を開催するなど、もう少し地域に密着した活動ができれば、もっと地域課題について協議できたのではないかと思う。

また、委員同士の交流も、コロナ禍により、ほとんど会話もなくコミュニケーション不足で終了してしまい、少し寂しい思いもある。ただ、自主的審議で 4 年目にして「新道区活性化委員会」が立ち上がったことは、一定の評価ができると思う。

【井澤委員】

最初は何もわからず、会議の議事についていくこともできず、悩んだこともあったが、周りから温かい言葉をかけていただき、分科会では貴重な体験をさせていただき、楽しい活動をさせてもらった。コロナ禍の 4 年間だったが、皆様に感謝申し上げます。

【金井委員】

4 年間はあっという間に過ぎた。最後の 1 年間は何か空回りしたような感じになり、失速気味になった。私としては残念に思っている。協議会として、本当の力を発揮できたかということに対して、自分も含めて反省をしている。

【佐藤委員】

拝命当初は地域活動支援事業の審査が主な仕事と思っていた。地域に住む人々あるいは委員同士の話し合いを通じて、広く地域の課題を抽出し、提案、発信することが重要な職務であることが理解でき、その観点で取り組んできた。

自主的審議において、いろいろな課題がある中から 3 件のテーマについて取り組んだことは成果として評価できると思う。反省点として、地域、どうしても町内会単位になってしまうが、地域協議会の存在や意義を十分に発信できなかつたように思う。このこ

とは、自主的審議で取り上げられた 3 件のテーマを推進するためには大変重要になると考える。今後は、地域の課題解決のため、できる範囲で参加、協力していきたいと思う。

【杉田委員】

4 年間の感謝を申し上げる。少しでも地域の方々の役に立てるように活動したが、勉強不足のため、あまり役に立たなかったと反省している。地域課題について、審議を多くできたらよいと思った。

【千町委員】

我が町内は、団地造成前は田んぼで、隣接町内側の古川用水路を挟んで 1m の高低差があり、用水路の上流も各町内の道路整備や商業化により、台風や大雨のたびに用水路・内水氾濫、関川の増水で道路の冠水、住宅への浸水を繰り返している。用水路末端の樋門の大型排水機場を新設するため、新道地区全体として、上越市、国土交通省に発信することが地域協議会委員になるきっかけとなった。

【高野委員】

本当に最初は何も分からないことだらけで、私に務まるのかと思い、試行錯誤しながら、毎回出席している状態であった。でも、このような経験はなかなかできない、凄く濃厚な楽しい時間を過ごさせていただいた。視察に行くなど、多くの経験をさせていただいた。この協議会に入れたことも、自分にとってもプラスになったと思う。皆さんの新道地区愛を感じながら、この 4 年間学ばせていただいた。感謝申し上げる。

【本城委員】

4 年間を振り返ると、私自身、地域協議会の制度や運営など、認識不足なところがあり、委員として本当に貢献できたか疑問に思う。しかし、この 4 年間で地域協議会の役割、地域の課題などについて把握することができた。また、各委員の発想力や、発言、行動などに助けられ、大変良い経験、また良い勉強をさせていただいた。委員の皆さんにお礼を申し上げたい。

【三浦委員】

今までは、自分が住む町内会の状況しか把握していなかったが、地域協議会委員になり、新道地区内の課題について多くのことを知ることができた。住みやすい地域ではあるが、少子高齢化、それに伴う空き家の増加、災害対策など、解決すべき課題は多い。その中で「地域交流分科会」「新道の道分科会」でかなりの議論ができ、一定の方向性を導き出せたことは評価できると思う。

【横山委員】

新道区地域協議会は、私にとって新道地区を知る有意義な会であった。当会に参加するまでは、新道地区についての認識はとても浅く、狭いものであった。しかし、地域を熟知されている委員の皆さんと協議を重ねるうちに、解決すべき課題や、活気があり潤いある地域づくりには何が必要かを自分事として考えるようになった。委員の皆さんには心より感謝を申し上げる。

【飯塚副会長】

長い間、新道区に住んでいるが、委員になって初めて知ることも多く、非常に勉強になった。今後に向けた提案、要望として、若い委員の数を増やしてほしい、他区協議会委員との交流の場を設けてほしい、最初に会議を行う日、曜日、時間を決め、年間スケジュールの作成を行ってはどうか。

【塚田副会長】

令和2年度と3年度は、地域活動支援事業の採択で責任の重さをとても感じた。4年度と5年度では、地域の特徴をいかした取組として、河川敷の有効活用では、国や県などいろいろな所が関わるのでなかなか難しいことを知らされた。しかし、声を上げなければ前に進まないのは確かだと思うので、地域協議会の力が必要だと感じた。

そして、コロナ禍ではあったが、委員同士のコミュニケーションの取り方をもう少し密にできればよかったと感じた。

【船崎会長】

以上で次第2議題「(1) 協議事項」の「4年間の活動の振り返りについて」を終了する。

次に、次第2議題「(1) 協議事項」の「次期委員への引継事項について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

- ・資料No.1、資料No.2に基づき説明

【船崎会長】

ただ今の説明について、質問、意見を求める。

【金井委員】

次期委員へというよりも、自分の希望になるが、この会議はどちらかというと、ボトムアップ形式だと思う。地域活性化について協議するのが命題だと思っているが、一つ腑に落ちないのは、もっと大きな指針というか、こういうことに向かっていくというこ

とを絞り込まないと、一つの地区だけ活性化しても、全体に波及させるのは難しいと思う。例えば、「観光に行こう」とか、そういうスローガンのもとに進めるとか、「少子化」や「福祉」など、もう少しテーマを選別しないと、下が考えて、それを審議しろという話では、今の時代うまくいかない。インパクトがない。新しい人が来ても烏合の衆で、空き家問題などの話になると思うが、違う気がする。市から何か指針があつていいと思う。そうでないと今回と同じようなことになる。リーダーシップが必要だ。

【佐藤委員】

地域協議会の存在や意義について、住民の皆さんから理解してもらうような取組が必要であり、私自身、それに対する具体的な活動は、不足だった気がする。

地域の課題となると、どうしても町内会単位になるので、そういう場合に地域協議会委員の皆さんが、いろいろなことを地域に持ち帰って、町内会に働きかける、あるいは町内会からもいろいろ提案してもらうという形にしないと、全体での活動の活性化ができないと感じていた。次の委員には、そういう観点で、この地域協議会の存在や意義を発信するような活動を希望する。

【小林所長】

金井委員から、ボトムアップではなく、トップダウンの方式でいいのではという意見があつた。地域自治区制度は、自主自立のまちづくりなどと言われるが、地域のことは地域で決めて地域で実行しようという考えのもと地域自治区制度がスタートしている。本来はボトムアップ方式で、自分たちで決めて自分たちで実行するということだが、それだけでは行き詰まってしまい、ボトムアップとトップダウンの兼ね合いが必要だという指摘は、私ども事務局への宿題とさせてもらう。行政としてこれを受け止め、次期に向けて考えていきたいと思う。

佐藤委員の意見についても、地域というまとまりをどう考えるかということは、事務局でも、今後考えていかなければいけない部分あり、預からせていただく。

【横山委員】

市議会議員と地域協議会の関係性を教えてほしい。もっと市議会議員と地域協議会の懇談の場があつてもいいのではないか。

【小林所長】

地方自治体は、市民サービスを提案・実施する執行機関と、それについて審査・議決する市議会の二元代表制で運営されている。地域協議会委員は地域の代表ではあるが、

新道区の区域内のことについて協議し、一方、市議会議員は、市全体のことについて話し合っている。地域協議会の権限については条例で規定されている。

【横山委員】

市議会議員は、地元の特化できるわけではないか。

【小林所長】

そうである。

【船崎会長】

自主的審議については、新道地区町内会長協議会に内水氾濫についての協議結果を報告した。他に自主的審議について申し送り事項があれば、発言をお願いしたい。

(発言無し)

以上で次第2議題「(1) 協議事項」の「次期委員への引継事項について」を終了する。
次に、次第2議題「(2) 報告事項」の「地域独自の予算の事業一覧について」に入る。
事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

・資料No.3、資料No.4に基づき説明

【船崎会長】

ただ今の説明について、質問、意見を求める。

【杉田委員】

「稲田むすぶプロジェクト」について、令和5年度は予算が100万円強であったが、今回は300万円を超えている。理由を知りたい。

【渡邊係長】

令和5年度は補助対象外経費としていたものが、6年度は補助対象としたのと、「稲田むすぶフェスティバル」のほかに、新たに事業が追加されたため、増額となった。

【船崎会長】

他に質問、意見はないか。

(発言無し)

以上で次第2議題「(2) 報告事項」の「地域独自の予算の事業一覧について」を終了する。

次に、次第2議題「(3) その他」に入る。

その他、何かあるか。

(発言無し)

以上で次第2議題「(3) その他」を終了する。

次に、次第3その他「(1) その他」に入る。

任期は4月28日までだが、協議事項は終了したので、本日を最後の協議会とさせていただきたいが、よろしいか。

(よしの声)

それでは、本日をもって今期の会議を終了する。

最後に地域協議会の活動の振り返り、感想を申し上げたい。

地域協議会ができて約20年になる。私は8年前からこの地域協議会のメンバーとして活動してきた。最初の4年間は新道地区の地域活動支援事業の予算を振り分けるのが仕事だった。協議会がどうして予算を振り分けなければならないのか。これは行政の仕事ではないかと思った。各区の予算の使われ方を確認すると、町内会行事の費用などに充てられていて、違和感があった。最初の4年間は、ただ予算の振り分けという印象しかなかった。

今期4年間の最初の1年は、また予算の振り分けをし、その後コロナが始まり、地域活動支援事業が地域独自の予算という形になり、地域を活性化させるにはどうしたらいいとか、自主審議をどのようにまとめるかという協議になった。私自身は、その方がいいと思った。

我々委員は、新道区のことをどこまで理解しているか。新道区全体を見渡すと南部、中部、北部と3つに分かれている。私が子供のときは、大体全体のことを分かっていたが、現在は別々に活動していて、特に南部と北部は互いにどこに何があるかもよく分からない状態だ。その中で、新道地区全体の活性化だとか、共通する課題を確認し、解決するにはどうしたらいいのかと協議をしても上手くいかない。

今回は最終的に水害、内水氾濫の話になったが、実際は南部と中部の内水氾濫の被害が大きく、北部は被害があまりないので話が上手く噛み合わなかった。次の委員には、新道地区の内情をしっかりと把握し、活動してもらいたい。

この4年間、実質的には3年ぐらいはコロナで思うような活動が全くできず、非常に残念だった。地域協議会が発展していくためには、委員自身も勉強しなければならないと思う。皆さんと一緒に活動できて幸せであった。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。